

金沢市立病院のめざす基本の方針について

1. 市立病院の特長

- (1) 開設者：金沢市長
平成 25 年度より地方公営企業法全部適用とし、事業管理者（院長併任）を設置することで、病院経営の効率性と即効性を高める。
- (2) 基本理念
市民の生命と健康を守るため、地域のニーズを反映し市民に信頼される質の高い病院を目指す。
- (3) 経営理念
市民の生命と健康を守るため、診療所・病院、保健・介護・福祉施設と連携し、入院医療から在宅医療移行時の相互支援を行う「地域完結型医療」を実践することで、地域保健・医療の中心的役割を担う。
- (4) 使命
地域の皆さんとともにつくる「安全・安心・味わいの医療」を提供。
- (5) 看護体制
7 対 1 看護・・・入院患者 7 人に対し看護師 1 人を配置することで、高度医療への対応、医療の質と安全の確保を図る。

2. 病院運営の基本の方針

- (1) 提供する医療と地域医療構想
急性期医療を充実させるとともに、回復期機能を持つことで、在宅医療との継続性を担う病院としてコミュニティー医療を実践する。
※ 金沢市立病院が目指すコミュニティー医療
・ 病院の枠を越え、地域全体を見据えた医療
・ ICT を有効に利用した病診連携、医療・介護連携
- (2) 提供する医療の質の確保
救急医療、高度医療、結核・感染症医療、災害医療等の特殊・不採算部門を担うとともに、各診療センター等に先進機器や技術を導入し機能強化を図る。
- (3) 地域住民を中心とした医療の実現
急性期医療から在宅医療への円滑な移行には、かかりつけ医、介護・福祉施設やケアマネージャーとの連携が必要であり、医療 ICT の積極的な活用により地域医療・介護とのネットワークを構築する。

(4) 地域包括ケアの推進

2025 年の高齢化社会に向けた地域包括ケアシステムの構築を図るため、地域連携室を中心に入退院支援を行い、後方支援病院としての役割の強化、看護師による退院直後の在宅医療の支援、かかりつけ医や介護施設等との患者情報の共有化に取り組む。

(5) 経営の分析と効率化

経営企画室に専任職員を配置し、企画立案や経営分析等を行い、病院機能の向上や経営効率の改善を図る。また、診療材料費の適正管理やジェネリック医薬品への積極的な切り替えなどにより、経費の削減に努める。

(6) 職員の教育・研修・研究体制の強化

初期臨床研修医の育成や医療系学生の受入れを積極的に行うとともに、薬剤師・看護師等病院スタッフの専門資格取得への支援を行うことで、研修・研究体制を強化し、人材育成を図る。

(7) 勤務環境の改善

病児保育施設の開設等、子育て世代が働きやすい勤務環境を整備するとともに、タスク・シフティング(業務の移管)やタスク・シェアリング(業務の共同化)によって、医師、看護師等の働き方改革を進める。

(8) 安らぎの空間の提供と地域連携

美大と連携し、医療・福祉とアートの融合による「ホスピタリティアート・プロジェクト」を継続実施することで、院内に安らぎの空間を創出するとともに、出前講座やワークショップの開催により、積極的に医療を通じた地域貢献を行う。

- ・ **急性期医療、回復期機能**・・・急性期医療とは、緊急・重症な状態にある患者に対して、状態の早期安定に向けて入院・手術・検査など専門的に提供される医療。回復期機能とは、急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能
- ・ **地域包括ケアシステム**・・・団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を目途に、重度の要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制
- ・ **後方支援病院**・・・在宅診療を受ける患者に通院・入院が必要となった場合に備え、あらかじめ患者の診療情報を登録してある病院
- ・ **初期臨床研修**・・・医師法により、医師免許取得者が、大学病院または厚生労働省の指定病院で、指導医のもと 2 年以上の臨床研修を積むよう義務付けられたもの